

(47) 大正(たいしょう)鉾山跡と 岩谷(いわたに)鉾山跡

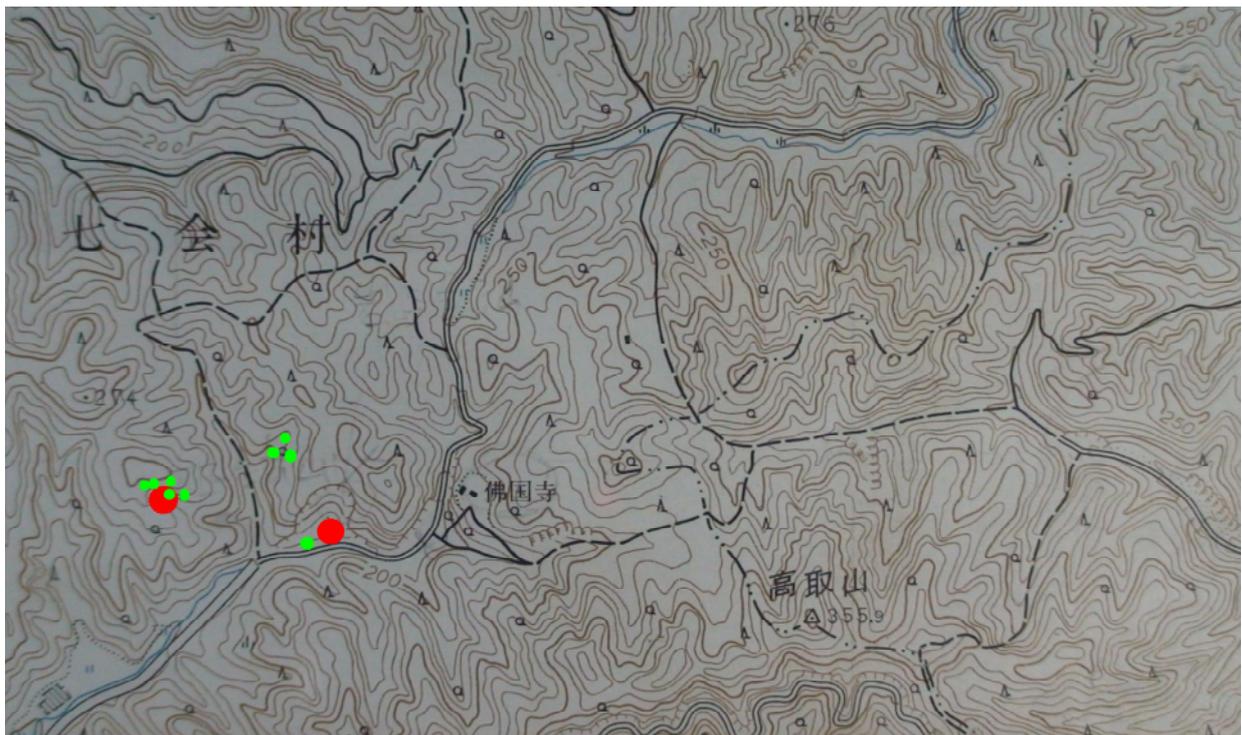
参考文献(1)には、「・・・。本鉾山(高取鉾山)の西北続きに岩谷鉾山及び大正鉾山がある。何れも休山中であるが、高取鉾山の連続で同一種類の鉾床である。大正鉾山は鈴石に富むと言われる。・・・」との記載がある。地質調査所を訪問し、図書で高取鉾山近傍の古い地質図を閲覧することができた。地質図には、高取鉾山、大正鉾山、岩谷鉾山の位置が明記されていた。この地質図を手引きに、大正鉾山と岩谷鉾山の探査を行った。現地は茨城県城里町塩子の山間地である。橋本地区で51号から39号に入り、約1.2km先の道路の右側に、林道入り口がある。地形図中の波線の道である。地形図中の左の赤丸が大正鉾山跡、右の赤丸が岩谷鉾山跡である。波線の林道の左が大正鉾山跡、右が岩谷鉾山跡。

大正鉾山跡には、波線の道を約100m進んだ当りで、進行方向左側にある広くてなだらかな沢に進む。途中幾つかのマウンドがある。沢の上流に向かって右側に沢山の坑口跡がある。

岩谷鉾山は来た道路を約200m先に進む。道路の左手に木々に隠れて岩肌が見える。地形図中の崖の印の所である。岩谷鉾山の坑口は、道路脇の坑口だけかと思っていたが、古い地質図には、地形図中の赤丸の北側、つまり波線の林道右側に幾つかの坑口が記載されていた。現地探査の結果、確かに幾つかの坑口があった。

岩谷鉾山では、南の坑口跡でも、北側の坑口跡でも、何らめばしい物を採集することはできなかった。が、大正鉾山では、鈴石の微結晶が集まっている1cm四方の標本を、1個のみ採集することができた。

高取山の南方にタンゲステン鉾山であった高取鉾山がある。その当りについては、錫高野鉾山跡の章を参照すること。



左の赤丸が大正鉾山跡、右の赤丸が岩谷鉾山跡。緑丸が坑口。緑丸の位置、数は大雑把である。

地図 国土地理院地形図2万5千分の1地形図「野口」

探査日 2009年7月、その他

参考文献

(1)「日本地方鉾床誌 関東地方」今井、河井、宮沢編者、朝倉書店、1973年発行。

鉾山跡写真

大正鉾山



車道から見た大正鉾山への林道入り口です。撮影当日は小雪が降っていた。この林道を100m進んで行くと、左手に広いなだらかな沢がある。この沢の上部が大正鉾山跡である。登っていくと幾つかのマウントがあります。登り詰めていった当りの右側の斜面に、幾つもの廃坑があります。



坑口の1つ



坑口のまた1つ

採集鉱物写真

大正鉱山跡には、ズリはたくさんありそうだ。が、肝心の、主要鉱石であるタングステン鉱石や鉛石は、よほど時間をかけないと採集できなさそうである。2回ほどで、1cm四方の母岩に1mm以下の微結晶がこびり付いた鉛石を1つだけ採集できた。以下の写真が採集品です。

品名	錫石	Cassiterite	錫の重要鉱物
化学組成	SnO ₂		
色	黒色、褐色		
光沢	ダイヤモンド～金属		
条痕	淡黄		
比重	7.0		
硬度	6.5		
結晶系	正方晶系		
劈開	なし		
共生鉱物	石英、白雲母、方解石、灰重石など		
解説			



中央部の半透明の微結晶は石英と水晶、その周りの黒色の微結晶が錫石

岩谷鉱山



道路から見た岩谷鉱山の崖地ですが、木々の向こうなのでよく見えません。



道路から崖地に向かったの左側に、道路の目の先にあった坑口



北側の坑口の1つ



北側の坑口のもう1つ